

学 位 論 文 要 旨

氏 名 奥村 弥生

題 目 情動への評価とその適応機能に関する心理学的研究

人は、自分の怒りを恥ずかしいものと感じたり、悲しみを厄介なものと思うなど、自己の情動に対して評価的な捉え方をすることがある。本研究では、このような事象を「情動への評価」と概念提起し、「自己が経験した情動に対する肯定・否定の価値づけを伴う評価」と定義して検討を行った。

情動は、そもそも人を適応に導く機能的な側面があり、例えば怒りは、目標達成の妨げとなっている障壁の除去を動機づけ、他者に対しては攻撃の可能性の警告シグナルとして働くとされる (Malatesta & Wilson, 1988)。一方で、情動を適切に認識したり表出したりできない場合は、心身の健康に悪影響を及ぼしうる「両刃の剣」のような側面がある。よって、情動知能 (Ciarrochi, Forgas, & Mayer, 2001) や情動コンピテンス (Saarni, 1999) などの概念が注目され、子どもの社会情動的な能力を育成するソーシャル・エモーショナル・ラーニング (Elias, M. J. et al., 1997) などのプログラムにも近年注目が集まっている。

このように、情動にまつわる様々な要素が検討される中で、人が自己の情動をどのように主観的に捉え、評価しているのかについてはあまり検討されていない。しかしながら、情動を否定的に評価していれば表出がされにくくなるというように、情動への評価は、情動の認識や表出、他者との関係性等、広くその人の適応に関わる可能性がある。よって本研究では、「情動への評価」に着目し、その構成概念の検討や、測定方法の開発、関連要因との関連、教育現場及び臨床現場への応用について検討を行った。

第1章では、先行研究を概観し、情動への評価に類似する概念との共通点及び相違点を明確にし、概念整理を行った。

第2章第1節では、インタビュー調査を行い、情動への評価として具体的にどのような内容のものがあるのかを検討した。

続いて第2章第2節では、インタビュー調査で収集した内容をもとに、情動への評価を測定しうる尺度の作成を行った。その結果、「他者懸念 (自己の情動に対する恥などの他者を意識した否定的評価)」、「必要性 (情動の必要性や有用性を認める肯定的評価)」、「負担感 (きつさや厄介さなど、情動を負担になるものとする否定的評価)」という3つの因子が見いだされた。さらに、情動へ否定的評価 (他者懸念・負担感) は、情動の認識困難・言語化困難との正の関連が示された。

第2章第3節では、情動への評価と愛着との関連について検討した。情動は自己の中だけで経験されるものではなく、他者との関係性の中で経験されるものである。他者との関係性の中で情動がどう取り扱われてきたかは、情動への評価とも関連することが考えられる。ここでは、他者との関係性の指標として愛着を取り上げ、情動への評価との関連を検討した。その結果、概して情動への否定的評価と不安定な愛着スタイルが関連していることが明らかになった。また、その関連性は、より詳細には、情動の性質と愛着スタイルによってそれぞれ異なることが示された。

第3章第1節では、教師の情動への評価に焦点を当てて検討を行った。近年、教育現場においては子どもの情動面における発達が注目されており、社会情動的能力の育成が重視されるようになってきている。教師は、日常的な関りを通して、また、ソーシャル・エモーショナル・ラーニングなどのプログラム等の実施を通して、子どもの社会情動的能力を育成する立場にある。しかしながら、教育現場で子どもに関わる教師自身が、子どもの情動面の育成をどのように捉えているか、どの程度大切なものと認識しているかは検討の余地がある。本節では、教員養成学部の大学生の情動への評価と共感性に着目し、それと子どもへの情動的支援の捉え方との関連を検討した結果、情動への肯定的評価や、他者の情動に対する多様で豊かな共感反応が、子どもの情動喚起場面における主体的解決をより重視することに関連することが示された。

第3章第2節では、心理臨床場面における情動への評価概念の応用について論じた。心理臨床場面はクライアントとセラピストとの間で様々な情緒が経験されるが、その中で、その情緒自体への罪悪感や恥が喚起されることも少なくない。ここでは、自己の情緒を出すことができず、自らの情緒に恥や罪悪感を感じていた臨床事例を提示し、それが治療関係の中でどのように現れ変化していったかについて検討することで、臨床現場における情動への評価概念の活用について論じる。

以上、本研究では、「情動への評価」が、情動の認識や言語化ならびに他者との関係性等、広く適応にどのような機能を果たすか検討するとともに、教育現場や臨床現場に寄与する示唆を得た。